

I. 活動を考える前に



まずは、教室での具体的な活動を考える前に、教室のことや一緒に活動する人々（学習者やボランティア）のこと、そしてボランティアのひとりである、わたし自身のことを考えてみます。

1. 地域に暮らす外国人

Q. 現在、日本にはどのくらい外国人がいるのでしょうか。



●日本の在留外国人数は

203万8,159人（2012年末現在）

日本総人口比 1.6%

*在留外国人・・・中長期在留者と特別永住者を合わせた外国人で、旅行者などの短期滞在者は含みません。

*法務省入国管理局HP http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00030.html



日本語教室の学習者には、上記の数字の中に含まれない人も多くいます。

帰化した人、また家庭内言語が日本語ではない子どもたちなど、日本国籍であっても日本語に困難を感じる人たちです。

そういう人に対して「外国につながる」、「外国にルーツを持つ」などの表現が使われる場合もあります。

☞ 日頃、どんなところで外国人と出会うでしょうか。

Q. 現在、神奈川県には、どのくらい外国人がいるのでしょうか。



●神奈川県内の在留外国人数は
16万1,155人（2012年末現在）

外国籍県民比率 1.8%
（全国では 1.6%）

Q. 神奈川県内では、どの市町村に多いのでしょうか。どこの出身者が多いのでしょうか。

●外国籍住民の比率が高い県内の市町村

① 愛川町 5.4% ② 綾瀬市 3.3% ③ 大和市 2.4%

* 横浜市中区(10.2%)など、外国人比率が
さらに高い地区もあります。

●県内在留外国人出身地別構成比

①中国 34.3% ②韓国・朝鮮 19.0% ③フィリピン 11.0%

④ブラジル 5.6% ⑤ペルー 4.2% ⑥ベトナム 4.0%

*データは、2012年末の在留外国人数と2013年1月1日の県人口から算出したものです。

神奈川県 HP「神奈川県人口統計調査公表資料」 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6774/p520876.html>

「県内外国人統計」 <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4695/>

☞皆さんの市町村には、どのくらい外国人がいるのでしょうか。

（市町村のHPに載っている場合もあります。）

皆さんの地域や教室には、どこから来た人が多いのでしょうか。



2. 教室を知る

Q. 教室に来ている人は、どんな人が多いですか。



出身地域は？

東アジア／南アジア／中南米／欧米／その他

日本に来た理由は？

仕事／勉強／家族の仕事で／日本人との結婚で／その他

日本語を学ぶ理由は？

日常生活のため／人づき合いのため／仕事のため／家族のため／日本語能力試験／その他

漢字圏／非漢字圏？



©Johnny Inoue

日本語をどこで誰と使う？

仕事で／家族と／友達や同僚と／買い物／日本語教室／その他



学習者の母語によって、漢字や媒介語の利用など、やり取りのしかたも変わってきます。

とはいえ、中国、韓国出身でも漢字学習経験がなく、漢字がわからない方もいます。中国の朝鮮族や、韓国系カナダ人、複数の国への移住経験を持つ人など、国籍だけではわからない多言語多文化を持っている方もいます。

Q. 地域の日本語教室は、いろいろなタイプの教室があります。
あなたの教室は、どんなタイプの教室ですか。



教室の目的

学習者が日本語を学ぶ

学習者が日本社会などを知る

ボランティアが〇〇を学ぶ

国際理解・国際交流

ボランティアと学習者が学び合う

その他

活動スタイル

ペア

中グループ (6人～)

小グループ(3～5人)

教室全体と一緒に

その他

活動内容

文法文型中心
〔文法や文型を体系的に学ぶ日本語学習〕

タスク中心
〔目標達成のための日本語学習
例：道を聞く／銀行口座を作る
／頼む／謝る〕

対話中心
〔テーマなどで話し合う〕

その他

3. 互いに知り合う



学習者の出身地のことや、好きなもの、興味のあることなどに、話の糸口や、日本語学習にも活かせるヒントがたくさんあります。しかし、「知り合う」とは、互いの情報をたくさん持つことではなく、むしろ心あるやりとりを通して互いのニーズを知り、理解を深めていくことではないでしょうか。

今、学習者が何を必要としているか、そして、それは何のためかがわかると、地域で暮らしていくために必要なことへ、学習者をつなげることができます。

例えば・・・①地域の人々へつなげる



〇〇さんは、カラオケに行きますか？

カラオケ、好きです。歌、上手じゃないけど、好きです。教会でよく歌いました。

そうなんですか。町内にゴスペルのサークルがありますよ。今度コンサートがあるみたいだけど、行ってみませんか。



はい、行きたいです。いつですか？



地域や人とのつながりは、移動してきた外国人にとっても安全で豊かに暮らすためのセーフティーネット（安全網）になります。同じ地域を共有しているボランティアだったら、地域の人々や地域イベントなどにもつなげられ、セーフティーネットを広げるお手伝いができます。

例えば・・・②日本語学習へ活用する



〇〇さんは、
料理をしますか？

はい。料理、好き
です。日本料理が
知りたいです。

そうですか。私は韓国
料理が知りたいので、
教えてください。私も日
本料理を教えます。



はい。天ぷらが作りた
いです。韓国料理は何
がいいですか？

文法の「動詞て形」学習に〇〇さんの趣味を活用し、料理レシピを読んで理解し、自分でもレシピを書く活動をする。

- ①「動詞て形」を使った簡単な日本料理レシピを事前に作成しておく。
レシピの文中の「動詞て形」を意識させながら、内容を読んで理解してもらう。
- ②次に、〇〇さんにレシピを書いてもらう。まずは、短文を重ねたレシピでOK。
(例：①にんじんの皮をむきます。小さく切ります。フライパンに油を入れます。揚げます。)



私は、2つの文を「～て」
でつないで書きました。
〇〇さんのレシピも、
そうしましょうか。

はい。どう
しますか？



- ③「動詞て形」の活用を紹介し、「動詞て形」を使ってレシピを完成させる。
その後、他のボランティアや学習者にも、レシピを紹介する。



〇〇さんが料理好きだとわかったら、他にも、地場産の食材の話や料理教室などの活動ができます。もしかしたら、地元の食材が学習者の食卓に並ぶかもしれませんね。

学習者の興味関心を生かした活動は、生き生きとした学びにつながります。

でも、まだ気心がしれな
いうちは根掘り葉掘り
聞けないよね。

教室に来た時に
必要事項は聞いて
いるしね・・・。



あれこれ聞き出すのは、何か人の情報
を管理するようで抵抗があるなあ。
友達にそんなことは聞かないでしょ。
もし、学習者カルテみたいなのがあ
ると知ったら、私は嫌だな。



相手のことを理解したいと思ったら、「知りたい」という欲
求が出てくるのは自然なことです。でも、「知りたい」という
気持ちが情報集めになってしまうと、身元調査のようになり
かねません。

でも、相互理解や話のヒント、学習への活用のためには、
やはり相手のことを知ることが大切です。調査書を作るので
はなく、心のメモにできればいいですね。



- ☞ 心のメモとして知っておくといいいことは、何でしょうか。
例えば、次のようなことでしょうか。



Q. 学習者のどんなことをメモしておく、活動に活かせるでしょうか。

● _____さん
_____代 (例: 30代) 男・女
出身地域: _____
母語: _____

●日本滞在

_____年 _____ヶ月
滞在目的:
どこ:
だれと:

●家族

・
・

●出身地_____のこと

・
・
・
・
・

●好きなもの

食べ物:

スポーツ:

音楽:

趣味:

●出身地でしていたこと

・
・
・例: 小学校で教師をしていた。



_____さん



●_____さんの日本語

・_____で、
_____ヶ月勉強した。
・_____で日本語を使う。
・日本語で_____
_____ようになりたい。
・

●_____さん エピソード

・
・
・
・
・
・
・

・例: 先月自転車が壊れたので歩いて教室まで来ている。

*いろいろなエピソードが聞けると、それが宝物になりますね。

4. ボランティアの私自身を振り返る



ボランティアの皆さんが持っている経験や地域リソース^{*1}は、学習者の学びの宝庫です。子育て中の方は地域の子育て情報をたくさん知っているでしょうし、引っ越し経験が豊富な人は家探しのコツをよく知っています。みなさんには、どんな引き出しがあるのでしょうか。

Q. 私の得意なことや、人とは違う経験はありますか。

それほどでもないけど…

● _____ (私)

出身地域： _____

母語： _____ (例:山形弁)

● 好きな事／できる事

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

- 例：カラオケ／野菜作り
- 例：編み物／けん玉

● 人と違う経験

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

- 例：富士登頂の経験あり
- 例：引っ越し6回
- ▷大変だった経験もよい

_____ (私)



● 地域リソース

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

- 例：ボーイスカウト
- 例：公民館の人と仲良し
- 例：町内会／手品サークル

● 私の学び(教室で)

-
-
-
-
-

- 例：多文化理解

*1：リソース

…役に立つ「資源」のこと



このシートをボランティア同士で見せあうと、仲間の新たな一面を知り思いがけない教室リソースが発見できるかもしれません。

コラム「共生を学ぶ場としての日本語教室」



外国人が地域の日本語教室に来るとき、最初に期待するものは日本語学習です。ところが、しばらく通うと、そこでは日本語だけでなく、日本での暮らしのノウハウや地域生活全般の情報が得られることを知り、日本語の勉強もさりながら、ボランティアや他の学習者など、教室に来る人たちと会うことが楽しみになっていきます。

一方、ボランティアの人からは「勉強させてもらうのはこっちの方よ」といった声がしばしば上がります。学習者からは、その国や文化のことはもちろん、助け合い、家族のつながり、苦境での明るさなどから、主張の強さや交渉のたくましさに至るまで、いろいろな刺激を受けることができます。

こうした経験を経て、ボランティアのみなさんは、最初ただの外国人として接した方を「〇〇さん」というその方の名前でも心に刻み、信頼し、大切な友人に数えていくのだと思います。友人が日本社会で不自由な目にあったり、差別されたりするのは耐えられないことです。

しかし、長い間、日本では、同じ言葉を話し、同質の文化背景を持つ日本人が圧倒的多数であったため、「常識」の一言ですべてが片付けられたり、「言わなくてもわかる」といった阿吽の呼吸が評価されたり、と、文化を異にする人たちが一緒に暮らすことが、まだまだ容易ではありません。GDPを支え続けるために、もっと外国人を招き入れないといけないといわれているのにもかかわらず、です。

そんな日本社会の片隅にありながら、地域の日本語教室は異文化の人たちと最も多く接触する場所です。異文化に最前線向き合っています。そこでボランティアとして活動される皆さんにとっては、教室はすでに多くのことを学べる場ですが、その学びに対して今少し意識的になってはいかがでしょう。日本語教室は外国人だけの学習の場から「ともに学ぶ場」に変わります。

何を学びとるのか、といえば、学習者とのやり取りから「ともに暮らす社会のありかた」、「ともに暮らす知恵」、「ともに暮らす豊かさ」などがあげられます。学習者の態度に、時に立腹したり、涙したりしながら、紆余曲折の末、最後は堅く手を握りあうことができる喜び。それを教室外の地域の日本人に発信していただければ、少しずつ異なる文化背景の人と接することに慣れ、地域社会も変わっていくに違いありません。

日本語教室はささやかな場所ですが、共生の知恵を学び、社会に働きかけられる場所であることもまた確かなのです。

コラム「心がとけちゃった」

ミカさん(30歳代女性)：11年前に日本人と結婚、子どもがいる。



私がずっと通っている日本語教室では、日本語の勉強だけではなく、言葉以外のコミュニケーションも教えてくれました。実は友達も別の日本語教室に通っていましたが「日本語の勉強だけで冷たい」と言ってすぐにやめてしまいました。教室に日本語だけを勉強に来る人は少ないと思います。「日本語教室」だけど、求めているのはそれだけじゃなく「居場所」。絶対欲しがっていると思います。学習者の中には、DVの被害を受けるなど、家族に恵まれない人もいますが、家族のような「居場所」(＝日本語教室)があると、心が強くなれます。

日本に来たときは言葉さえもわからず、自分が何もできない子供に戻ったかのように感じました。母国では幼い兄弟の世話をし、何でも自信があったのに、日本に来たら小学生以下のレベルで、毎日くやしくて、くやしくて…。でも日本語教室で、小さなことを1つ1つ重ねていけば、日本でも一人前の大人になれるということを教わった気がします。

何年かして、私はボランティアたちが活動後に行っているミーティングに興味を持ち、自分から参加するようになりました。話し合いを聞いて、ボランティアのみなさんがここまで私たちのことを考えてくれているんだと、そのとき初めて知り、もう感激で「心がとけちゃった」んですよ。ボランティアのみなさんの素晴らしさを知ってから、もっと日本語が上手になったら、私も誰かの役に立ちたいという夢ができました。教室に通う外国人に「私もボランティアできるかな」という気持ちが生まれ、活動できる場所があるということはとても大事なことです。それに、日本語を知らなかった私が感じたり思いついたりしたことは、ベテランのボランティアでも思いつかないかもしれません。私のような教室で長く学んできた学習者は、新しい扉を開くいい「カギ」になると思います。だから、日本語教室で長く学んだ学習者には、教室に残ってボランティアをして欲しいです。

一方、日本人は外国人に対して遠慮して物を言わなさすぎます。外国人にははっきり伝えても大丈夫です。でも、伝え方はとても大切ですね。叱られた、怒られたと感じたら、ずっと心に残ってしまいますから。相手の気持ちを考えて、言い方・タイミング・表情・スキップなどを大事にして伝えたら、外国人の勉強にもなります。

それに、ボランティアがお金をもらっていないことを知らない学習者も多いんですよ。「あんなに一生懸命教えてくれる人が、お金をもらっていないわけがない。国からもらっているに決まっているじゃない。」という人もいます。学習者が初めて教室に来たときなどに知らせた方がいいと思います。知っていたら、学習者側もちょっと違うと思います。



最後に将来の夢を聞くと、「夢は歌手です。でも、私のまわりに人が集まるようになるといい。人とコミュニケーションをとって、できるだけ何かの役に立ちたい。本当の私を失いたくない。」と語る笑顔が素敵なミカさんでした。